

令和7年FCP若手フォーラムについて

令和 7 年 6 月 3 日

総合ファシリテーター
山下安信
株式会社 フードサニテーション78

令和7年FCP若手フォーラムについて

1. FCP若手フォーラムの趣旨と目的
2. ファシリテーターの紹介
3. ワークショップを楽しみ、より有効に活用するコツ
4. FCP若手フォーラム 成果物について
 - (1) チーム成果物
 - (2) 個人目標



FCP若手フォーラムの趣旨と目的

【趣旨】

- 食品関連事業に携わる若手・中堅社員・職員を対象に、食の安全や消費者の信頼向上に関する知識やスキルを習得し、将来の業界や関係組織のリーダーの成長を支援する研修プログラムをめざす
- ご参加のみなさんに食品産業におけるさまざまな課題や取り組みを学び、実践的なスキルを身につける機会を提供する



FCP若手フォーラムの趣旨と目的

【目的】

- 食品業界の次世代を担う人材を育成する
- 食の安全・消費者の信頼向上への取り組みを継承する
- 多様な業種・部署の参加者によるネットワークを構築する

【参加対象者】

若手・中堅社員（職員）

業種・職種に限定なし

令和7年は品質管理、検査、製造、物流、製品開発、研究、マーケティング、行政等、幅広く参加



参加者は年間を通して同一人物で、原則、毎回出席

全チームにファシリテーター（FCP経験者）が加わり、助言する

FCP若手フォーラムの趣旨と目的

【スケジュール・会場※】

講演とワークショップ（4回）

第1回 6月3日（火）13時～17時 三田共用会議所 東京都港区三田2-1-8

第2回 7月15日（火）13時～17時 ニッポン本社 東京都千代田区麹町4-8

第3回 9月（予定）

第4回 11月ごろ（予定）

まとめ（チーム発表）の準備のみ（2回）

第5回 12月 ごろ(予定)

第6回 1月ごろ（予定）

活動報告会（チーム発表） 2月（予定）

会場

東京・霞が関 農林水産省（省内会議室または周辺会議室）

※スケジュール・会場は事情により変更になる場合があります

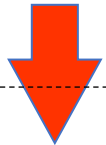


FCP若手フォーラムの趣旨と目的

【ワークショップの進行】

事前

1. チームで次回のリーダー・サブリーダーを決めます
2. 次回のテーマをもとに事前課題を出題します
リーダー・サブリーダーに締め切りまでに提出しましょう
3. リーダー・サブリーダーはまとめてチーム内で共有し、事務局に提出してください



当日

1. チームでリーダー・サブリーダーを中心に事前課題のテンプレートに従って、全員で協力して体験や意見を述べ合い、共有していきます
＜経験豊富なファシリテーターのサポートもあります！＞
2. 意見を模造紙/付箋紙などに記録していきます
3. 最後にチームで話し合った内容を発表しましょう



FCP若手フォーラムの趣旨と目的

【ワークショップを通して体験していただきたいこと】

- 食品産業の中のさまざまな取り組みや仕組みに触れて理解する
- グループワークに参加して意見を述べる
- グループワークをリードして進行する
- 自社の紹介・仕事を紹介する
- さまざまな意見から行動計画にまとめる
- 自社・組織に学んだことを伝える、仕事に役立てる

⇒フォーラムに参加するにあたり、学びたいことや身につけたいスキル、目標等を明確にして参加することで、身につけたいスキル※のための体験が可能になります

※スキル：自らの努力で獲得する技能や能力をいう



ファシリテーターの紹介

総合ファシリテーター

株式会社フードサンテーション78

山下 安信 氏
(やました やすのぶ)

アドバイザー

日本大学大学院

神井 弘之 氏
(かみい ひろゆき)

ファシリテーター

ライフフーズ株式会社

大澤 幸弘 氏
(おおさわ ゆきひろ)

ファシリテーター

安全衛生サポート

渡辺 敏雄 氏
(わたなべ としお)

ファシリテーター

株式会社ローソン

三森 伸二郎 氏
(みつもり しんじろう)

ファシリテーター

株式会社ニッポン

丹野 美和 氏
(たんの みわ)

ファシリテーター

ハウス食品グループ本社株式会社

折井 真人 氏
(おりい まひと)

ファシリテーター

株式会社シジシージャパン

岩井 弘光 氏
(いわい ひろみつ)

ファシリテーター

国分グループ本社株式会社

瀬川 恵寛 氏
(せがわ ともしげ)

ファシリテーター

ネオジェンジャパン株式会社

堀 景太 氏
(ほり けいた)

ファシリテーター

株式会社Mizkan Partners

篠田 太郎 氏
(しのだ たろう)

サブ・ファシリテーター

兼松食品株式会社

秋山 誠一郎 氏
(あきやま せいいちろう)

サブ・ファシリテーター

三菱食品株式会社

石田 悠二郎 氏
(いしだ ゆうじろう)

サブ・ファシリテーター

株式会社生活品質科学研究所

井口 花音 氏
(いぐち かのん)

アドバイザー

株式会社アンデルセン・パン
生活文化研究所

大西 由美 氏
(おおにし ゆみ)

ワークショップを楽しみ、より有効に活用するコツ



【ぜひ、みなさんにチャレンジして欲しいこと】



1. FCP（産官学協働のプラットフォーム）の取り組みを理解する
2. 若手フォーラムの魅力(規模) を体感し、みなさんの新しいネットワークをつくる
3. 参加メンバーとの意見交換を通して、考え方や視野を広げる
4. ワークショップを通して、個人目標を設定し、スキルアップにチャレンジする

ワークショップを楽しみ、より有効に活用するコツ

【よくいただく質問】

Q1. ワークショップにはどのように参加すればいいのか

Q2. ルーチンの仕事とどう両立させればいいのか

Q3. 自分のキャリアアップにどう役立てればいいのか

Q4. 上司にお願いしたい参加者（部下）のサポートとは



Q1. ワークショップにどのように参加すればいいのか

若手フォーラムでご自分の視野とネットワークを広げましょう。
主体的に参加することで、ご自身が求めているスキル（技能や能力）を伸ばし、
磨いていくための機会として有効に活用できます

事前準備

- 事前課題にはご自分の生活、組織とその周囲、必要に応じて関係者の話やネットで調べて、テンプレートに書き込みます
- チームで決めたその回のリーダー・サブリーダーに、メールで提出します
- チームメンバーのまとめがメールで届いたら、時間があるときに目を通しましょう

事前課題シート

http://www.maff.go.jp/j/shokusan/fcp/index.html

ワークショップ用 事前課題 食品安全と品質保証に対する考え方

チーム 記入者：

食品業界の食品安全や品質保証に関わる仕組みについて考えてみましょう

1. あなたの仕事または生活の中で、関わりのある食品安全や品質保証の仕組みを3つあげましょう
JAS規格（マヨネーズ）、冷凍食品認定マーク、JFS-C認証

2. 1で最も関心の高い仕組みを1つ選び、それはどのような長所と課題があるかを書いてください
JAS規格 長所は、商品にJASマークを表示することで消費者の商品選択に役立つ
課題は、市販品の多くに品質の差がなくなってきたり、JASのわかりやすい差別化が必要になっている

3. 食品安全の仕組みにはフードチェーンの「生産」「加工」「物流」「小売/外食」「消費者」、またそれを支える「関係行政」「有識者」の間の円滑なコミュニケーションが不可欠ですがその協力や信頼を向上させるためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。またあなたが提案したいことは何ですか
品質認証では食品安全と品質について差別化できる仕組み作りが必要だと思う。私はその仕組みを 考えて提案し、それを消費者の視点でわかりやすく伝えるコミュニケーションプランにチャレンジしたい

Copyright (C) 2023 MAFF All Rights Reserved.

例1. 食の安全・安心に関わるリスクの関心事を5つあげてみましょう

Q 1. フォーラムにどのように参加すればいいのか

当日

- チームの中で、全員が意見を述べて、話し合しましょう
- 意見は、チームごとに1.チームでリーダー・サブリーダーを中心に、 会場のテーブルにある模造紙/付箋紙などに記録していきます最後に代表から、チームで話し合った内容を発表していただきます

後日

- 機会をみつけて、職場や友人にも話題を提供してみましょう
(視野が広がり、新しいアイデアが生まれるかもしれません)



Q 1. フォーラムにどのように参加すればいいのか

ワークショップを活用するポイント（FCP経験者の例）

1. グループメンバーを把握する（仲間を知る）
2. ワークショップのテーマを理解する（事前に情報を整理しておく）
3. 事前課題に取り組む（戦略を練り、戦術を具体化する）
4. ワークショップのメンバーと交流する（視野を広げる）
5. 協働の機会点を探し行動を考える（スキルをみがく）



Q 2. ルーチンの仕事とどう両立させればいいのか



ルーチンのお仕事を最優先させてください。そして、自分で時間を作り、事前課題に取り組み、フォーラムに参加することがとても重要です。

- みなさんは毎日、いくつも仕事をこなしていらっしゃると思います。役職に応じて、関係者や関係先と一緒に取り組むタスクフォースやプロジェクトチームに参加する機会も増えます。ルーチンの仕事とは、別に取り組む仕事も生まれます。
- 緊急事案や優先課題が発生した場合には、仕事全体を見渡して緊急性や重要性からバランスをとって取り組むことが要求されます。
- 若手フォーラムは、将来、みなさんにとって重要な経験になります。**できる限り積極的に参加いただき、仕事に多様に対処する経験に是非チャレンジしてください。**

Q3. 自分のキャリアアップにどう役立てればいいのか

キャリアアップとは、「**より高い能力を身につけて、経歴を高めること**」をいいます。次代を担う若手スタッフのみなさんが1つ1つご自分の努力で経験を積む中で、スキル（技能や能力）を高め、磨いていくことでキャリアアップが達成されます。またそれは組織の成長と社会の進化につながります。

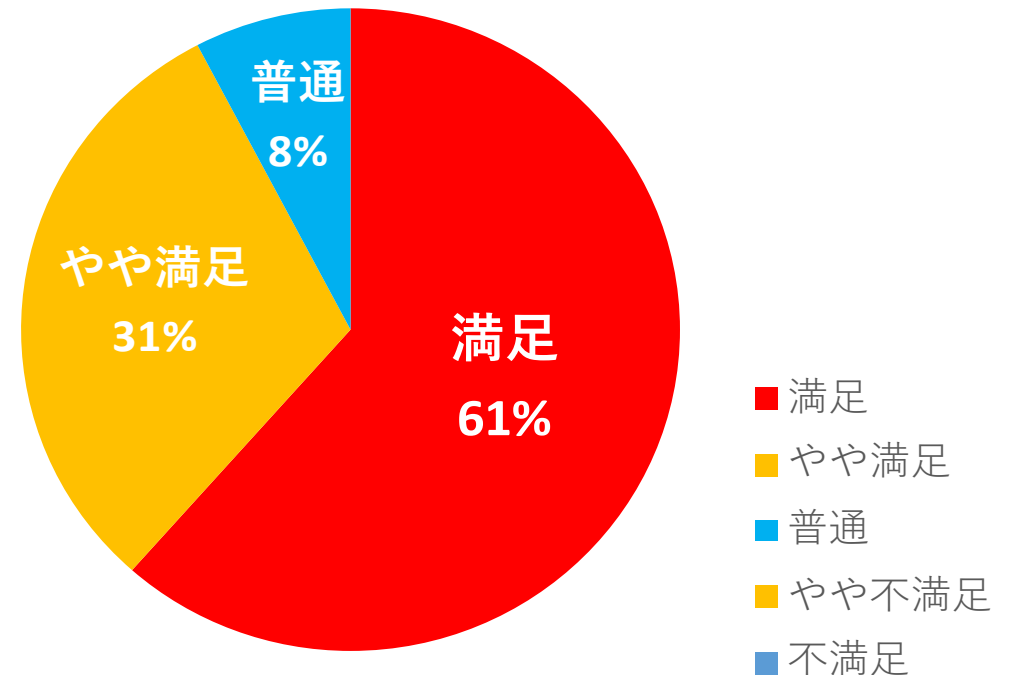


- FCP若手フォーラムでは、みなさんに是非、**チャレンジしたい目標とスキルを設定していただき、6回のワークショップと活動報告会（チーム成果物）、そして個人目標（個人成果物）を通してチャレンジしてみてください。**経験豊富なファシリテーターがみなさんをお迎えし、キャリアアップを応援します。

Q4. 上司にお願いしたい参加者（部下）のサポートとは

FCP若手フォーラムは、参加者のみなさんに個人目標を設定いただき、もし可能ならば上司や職場の方々と共有し、フィードバックを受けることで、1年間の成長の「見える化」に取り組んでいます。

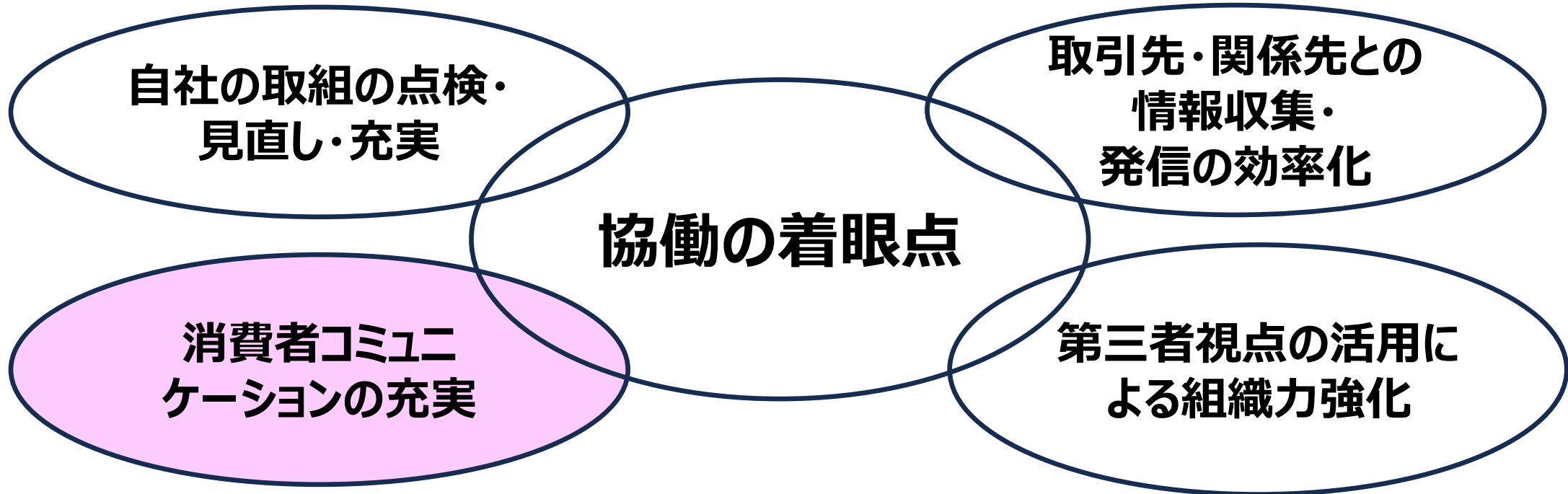
- ご参加の企業・団体（上司）へのアンケート調査では、9割以上の方から「満足」「やや満足」の評価をいただいています。



若手フォーラムへの満足度
（ご参加いただいた企業・団体（上司）への
アンケート調査より 令和4年若手フォーラム）

Q4. 上司にお願いしたい参加者（部下）のサポートとは

- FCPでは協働の着眼点のキーワードとして、「情報収集」「自社取組の点検」「第三者視点の活用」「消費者コミュニケーション」があります。若手フォーラムへの参加を機会に、FCPとそのツールを見てみましょう。



Q4. 上司にお願いしたい参加者（部下）のサポートとは

- また、若手フォーラムが提案するチャレンジの1つに、リーダーシップがあります。そこには一般的な次のスキル（能力）が要求されています



リーダーシップに要求されるスキル（能力）

スキル（能力）	内容（例）
専門性と汎用性	職務の分野を深い知識と経験で精通する能力とさまざまな方面で対応できる知識と経験をもって総合職や管理職に役立てる能力
コミュニケーション能力	相手の立場で考え、スムーズに意思疎通できる能力 どのような立場の相手ともコミュニケーションを取って信頼関係を築き、 仕事に対する価値観や方向性を近づけていく能力

Q4. 上司にお願いしたい参加者（部下）のサポートとは

リーダーシップに要求されるスキル（能力）

スキル（能力）	内容（例）
傾聴力	異なる意見を持つ相手との会話を進めお互いを理解していく能力
交渉力	お互いが納得する結果が出せるような話し合い、互いが納得できるゴールまで導くことができる能力
問題解決能力	実務で起きた問題を解決する責任能力で、社会や組織の仕組みを深く理解し失敗や反省を重ねる経験が重要になる

Q4. 上司にお願いしたい参加者（部下）のサポートとは

リーダーシップに要求されるスキル（能力）

スキル（能力）	内容（例）
主体性	自ら重要な決断を下し、設定した目標を達成する能力で、必要な下調べやチーム編成、プラン策定などに自発的に取り組むことで解決できる
誠実さ・信頼性	仕事上の付き合いや決断で常に誠実さをもって行動を、期限を厳守したスケジュール管理、謙虚な姿勢で自らの責任を認めることができる能力で実行できる

- もし可能ならば上司や職場の方々からは参加者（部下）には若手フォーラムで身につけたスキルを仕事の中で活用していく努力を評価いただき、またみなさまのご経験からのアドバイスをお願いします。

FCP若手フォーラム 成果物について

FCP若手フォーラム 最終成果物は2つ

- **チーム成果物（第5回～活動報告会までに資料を作成）**

フォーラム内で学んだことを踏まえチームでテーマを決め、活動報告会で発表します
※詳しくはワークショップの中でご説明します

- **個人成果物**

- ① 目標設定（第1回事後課題）

フォーラムで学びたいこと、自身の目標等を決め、参加しましょう

- ② 振り返り（活動報告会事後課題）

フォーラム全体を振り返り、目標に対する評価や仕事に活用すること、今後のビジョン等をまとめましょう

◇個人成果物の取り扱い

- ①目標設定を 第1回フォーラム開催後に
- ②振り返りを 全回終了後に作成し、FCP事務局にご提出いただきます

➤ 個人成果物は、活動報告会での発表等、一切公表はいたしません
(フォーラムの企画や運営の参考にさせていただきます)

◇記入内容

①目標設定 (第1回事後課題)

- ・チームの年間目標 (是非、チームで取り組みたい目標)
- ・個人の年間目標 (若手フォーラムで学びたいこと、身につけたいスキル等)
- ・ワークショップに取り組むにあたってのプラン
- ・若手フォーラムでの学びと経験のフィードバック

チーム名

氏名

目標設定

1. 若手フォーラム・チームの年間目標について
2. 若手フォーラムの個人の年間目標について
3. 若手フォーラム・ワークショップにどのように取り組んでいきますか
4. 若手フォーラムの学びや経験をどのように職場にフィードバックしていきますか

個人目標（1枚目）

提出期限 6月27日（金）

提出先 FCP事務局

令和7年度 FCP若手フォーラム 個人成果物①



チーム名		氏名	
------	--	----	--

◆若手フォーラム・チームの年間目標について	
①目標	②振り返り
◆若手フォーラムの個人の年間目標について	
①目標	②振り返り
◆若手フォーラム・ワークショップにどのように取り組んでいきますか	
①目標	②振り返り
◆若手フォーラムの学びや経験をどのように職場にフィードバックしていきますか	
①目標	②振り返り

◇記入内容

②振り返り（活動報告会の事後課題）

- ・①で立てた目標に対する評価（５段階評価、頑張った点・苦労した点）
- ・若手フォーラムで学んだことを自身の業務にどう活かすか
- ・今後頑張りたいことは何か、（課題、目標、キャリア等）



若手フォーラムに参加するにあたり、明確な目標を持って参加し、フォーラム後にはしっかりと振り返りを行うことで自身の成長につながります(*'▽')

自社で業務報告や成果報告をする際にもお使いください！

令和7年度 FCP若手フォーラム 個人成果物②

◇ 1年間を振り返り、会得できたと思うスキル、当初の目標に対しての成果等を確認しましょう

スキル	自己評価	頑張った点/苦労した点
FCP活動と取組みを理解する	1 2 3 4 5 1 2 3 4 5 1 2 3 4 5	
グループワークで意見を述べる	1 2 3 4 5 1 2 3 4 5 1 2 3 4 5	
グループワークをリードする	1 2 3 4 5 1 2 3 4 5 1 2 3 4 5	
自社の仕事を説明する	1 2 3 4 5 1 2 3 4 5 1 2 3 4 5	
さまざまな意見からとりまとめる	1 2 3 4 5 1 2 3 4 5 1 2 3 4 5	
自社に学んだことを伝える	1 2 3 4 5 1 2 3 4 5 1 2 3 4 5	

自己評価は1～5の5段階で評価してください
※ 5:身についた 4:やや身についた 3:どちらともいえない
2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった

◆ 若手フォーラムでの経験を踏まえこれからチャレンジしたいと思うこと（課題、今後の目標・キャリアプラン等）